



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所(二日町)
在宅療養支援有床診療所(浦佐)

もえぎ 4

Vol. 383
2024/4.15

黒岩 卓夫先生
87歳のお祝い(浦佐診療所)
祝いの舞(二日町診療所)
撮影地:浦佐診療所・二日町診療所
撮影者:各診療所職員

井口 龍哉 さん書

INDEX

- 2 『先生』がない、『学年』『教科』『通信簿』が
無い小学校/
認知症になっても安心して暮らせる地域へ
- 3 ミュージカルヒーロー空海と青年
- 4 黒岩卓夫一代記
- 5 裸押し合い/休日カフェ/ぼたもち作り
- 6 悔いのない一日を/篠原欣子記念財団
こども食堂応援プログラム
- 7 みんなの食堂・みんなの冷蔵庫
- 8 うちの利用者さん/ふみ/編集後記





萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志

このようにプロセスで決まったことは大きな力を持つ。6歳から民主主義の根底を体験しているのだ。「基礎学習」では、プロジェクト活動に必要な語学力、計算力などを学ぶ。「通信簿」「試験」は無く、「宿題」を強制されることもない。この教育から、思考力、判断力、自由に活動する力、創造力、個性が養われる。楽しんでばかりで学力は向上するのか？という問いに、ある大学の教授が、こと



今年の2月、当法人が運営する浦佐認定こども園で上映されたドキュメンタリー映画『夢みる小学校』を鑑賞した。映画に出てくる山梨県南アルプスこどもの村小学校(私立)には先生と呼ばれる人がいない。教員は皆『おとな』と呼ばれ『さん』付け。時間割の半分以上を占めるのが『プロジェクト』と呼ばれる体験学習で、建築、木工、歴史探求、料理、農業、劇作成、動物飼育などの中から子どもたちが好きな活動を選んで全学年ごちゃまぜで活動する。週一回の『ミーティング』では、大切なことを決めるのだが、この場では6歳の子どもも大人と同じ一票。話し合い、対話し、相手の話をきく。このようなプロセスで決まったことは大きな力を持つ。6歳から民主主義の根底を体験しているのだ。「基礎学習」では、プロジェクト活動に必要な語学力、計算力などを学ぶ。「通信簿」「試験」は無く、「宿題」を強制されることもない。この教育から、思考力、判断力、自由に活動する力、創造力、個性が養われる。楽しんでばかりで学力は向上するのか？という問いに、ある大学の教授が、こと

この映画には、自由な公立学校も登場する。60年以上前から成績通知表が無い、動物飼育、料理、農業などの総合学習がメインの長野県伊那市立伊那小学校。考える力、判断力を養うために校則を廃止した世田谷区立桜丘中学校。私立公立ともにこのような教育が実践できるのだ！と衝撃を受けた。このような教育改革が全国に広がり、地域を問わず誰もが総合学習や体験学習を選択できるようなことを願っている。

『先生』『教科』『通信簿』『学年』が無い小学校

認知症になっても安心して暮らせる地域へ



小規模多機能居宅介護「たもんの郷」
所長代理 梶原 哲也



認知症の方で、家や施設から外に出てしまい、家や施設が解らなくなり戻って来れなくなり、行方不明になってしまいう方は少なくありません。数時間ほどで見つかるケースや、何時間も経っても見つからないケースもあります。先日、3月23日(土)旧大和地区の東地域で、南魚沼市包括支援センター、東地域まちづくり協議会、地域住民、警察、消防、小学校の先生等たくさんの方が関わっての「認知症行方不明者捜索訓練」が行われました。そこにサービスマンとして関わり、行方不明者捜索し発見までの一連の訓練に参加しました。GPSを用いた早期発見のシステム等の紹介もあり、とても勉強になる訓練でした。私たち萌気会でも、認知症サポーターの養成講座を行っております。地域住民、小学校、中学校、専門学校、企業へ出向き



少しでも皆さんに認知症への理解を深めていただくことに取り組んでおります。皆さんの地域、学校、職場で講座の開催をご希望がございましたらぜひお声をおかけください！
認知症の方に必要な助けの手を差し伸べられる人を増やし、誰もが安心して暮らしていける地域をつくっていきけるといいですね。
【問い合わせ先】
しょうたき萌気たもんの郷
025-777-5522
梶原(クワバラ)

ミュージカルヒーロー空海と青年

萌気会 相談役
黒岩 卓夫

私は「ミュージカルヒーロー・空海と青年」公演の「実行委員会」の実行委員長を務めることになりました。

私は魚沼の地にやってきて54年になります。この間、医師なら誰でもぶつかる癌のような不治の病から生と死に直面し、医師、医療の無力さがわかりました。そこで故日野原重明先生を代表として「医療と宗教を考える会」をつくり全国にアピールしました。その新潟版は今でも「新潟のちの物語を紡ぐ会」として継承されています。

当時新潟県では長岡を中心に僧侶の運動が生れ、現在の長岡西病院に仏教ホスピス、ビハーラ病棟ができました。また「臨床宗教師」の制度もできました。



今は（医）萌気会、（福）桐鈴会に古いお寺を移築して皆喜んで「子ども食堂」やデスカフェ、ミニ音楽会などにも利用しています。

こうした下地があつての、今回のミュージカルが空海を核として松岡春和さんが原作しプロデュースされ、それを新潟で実行することを担っているのが「ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟」高見事務局長です。

このミュージカルは日本の歴史上、千年に一人の人物であり万人の「ヒーロー」である「空海」の生涯、思想と行動を骨格として、自殺を図った悩める「青年」と空海が対峙するドラマです。

ドラマは空海の日本・インド・中国をめぐる行動をファンタジーとして構成し、歓びと悲しみもたくさんの仲間たちと共に色

彩あでやかな踊りと歌で演じます。

さらにその思いは、自殺を図る青年自身が語るものですが、空海は19歳で平安時代の官僚社会、宗教社会の「権力、学力優先、賄賂、拝金主義」に心からの疑問をいだき、大学をやめ私度僧（山谷を放浪する）になり、自らで修業します。

また青年はファンタジックな世界に導かれ、目覚め「自分もヒーローになれる」をかみしめてミュージカルのフィナーレとなります。

このチャンスをとらえ、多様なハンディキャップを持ち、懸命に生きている障がいをもっている少年青年に、そのままの姿でこの舞台に登ってもらうことになりました。中越で1つ、新潟で1つのグループが精いっぱいのアピールをする予定です。宜しくお願いします。

最後に一言、一人の青年が生きる意味を見失ったように、現代社会が病んでいます。日本の社会は宗教の一部も、また「お金、を神とする政治団体も、泥まみれになっています。私はこの現実を空海の力強い思想と行動に肖り、ミュージカルの皆様と共に日本の社会が少しでも希望をいただけるものになることを願うものです。

そしてこのミュージカルが7月14日に聖籠町の文化会館で成功するよう、皆様のお力をお借りできることをお願いして御挨拶にさせていただきます。





ある春の日
私は訪問診療に出かけた
米山さんの家からは、
ばあちゃんを診て欲しいと
往診依頼が入っていた

米山家は、貧乏暮らしの老夫婦と
その息子夫婦が
同じ敷地内に暮らしていた



夫の春治は84才
70歳の時脳卒中になり、
軽い片麻痺が残っている

妻のカネは82才
本態性高血圧、うつ血性心不全、貧血
そして白内障兼緑内障で
視力もほとんどなかった



その日は8件の往診があり、
米山家に着いたのは
夕暮れの時刻だった

遅くなり
ました

目が悪い妻のカネは、
床を手で探りながら
出迎えた



挨拶もそこそこに
部屋に向かった



薄暗い部屋の中
夫婦は小さなテーブルを挟み
座ったが

部屋には空の二升瓶が
何本も転がっており



テーブルの丼には
うどんだけが入っており
真っ白だった



おら、目が見えねえ
ぼっか、他は
何ともねえども

カネは、少し動いた
だけで息づかいが
せわしなかった



じいちゃんは
どう??

おらあちこたねえが、
ばあはすっかり言に
なっておおごたでの、
先生なんか
ならんがだかね



あら、血圧
180/96だつて
高いね…
じいちゃんも
血圧高いぞ
薬飲んだ方が

薬なんいらんな
大丈夫だすけ、
あちこたねえ



三ヶ月前に保健センターの
保健婦から医療的ケアが
必要ではと相談を受けたのだが
当の三人は
そのようなケアを
必要としないようだった



特に何も言えず、
米山家を後にしたが、

カネさんは心不全が
あるし、春治さんも
アルコール依存症で…
2人とも入院したほうが
良さそうだとおね

若手とも
相談しなくては
だめだな



何より問題は
深い闇に横たわる
老夫婦が長年織りなした
二人だけの世界
なのではないだろうか

私たちの気持ちは
重いままだった

春治じいちゃんが諸悪の根源かもしれない。せがれの嫁ハルエは嫁いできてから、酒飲みで我が儘な舅に振り回され、ほとほと疲れていた。お金もないのに朝から飲んでた。ただオロオロと夫に仕えるカネさんもやっと生きてきたが、さすが目が見えなくなって、夫も少しはわかってきたようだった。ハルエさんも別居の形になってからやっとゆとりができたところだった。

萌気園大和通所介護 地蔵の湯 介護職員 櫻井 未来

3月2日、地蔵の湯裸押し合いが行われました。
撒くぞお～撒くぞ!!の掛け声で餅をイメージした白い和紙で餅撒きを行い、地蔵の湯の男性職員がさらしを巻いて裸押し合いに参加しました。
利用者さん達も手を伸ばして餅を取ろうとされたり、掛け声を掛けたりと楽しそうに参加されていました。

裸押し合い



通所リハビリセンター浦佐 介護職員 大谷 靖子

リハビリセンター浦佐、初の試み「休日カフェ」を3月17日に開催致しました。介護保険外の実費利用です。定休日である日曜日のリハビリセンター浦佐のフロアを利用し、話したくても話せない悩みや家での困り事などをお話しいただけたら良いなと思い、ストレス解消・おしゃべりを目的とした会を催しました。

今回は定員10名で募集し、9名の方からお集まりいただきました。自己紹介から始まり、話題は馴れ初めま

休日カフェ

で広がり、楽しい話ばかり。涙を流しながら大笑いする場面も。顔馴染みの方から初対面の方まで、普段話せない事が話せて良かったと喜ばれていました。要望がありました本気丼を食べ、買い物にも行き、大変満足されていました。



コム・ソフィ&ナース 介護職員 今井 大輔

最初はインターネットで調べて何とかなるだろう!やってみよう!と軽い気持ちで安易に始めた企画でした。私は勿論作ったことはなく、少し不安を抱えたまま当日を迎え、作ったことのある職員に聞きながらぼたもち作りが始まりました。利用者さんは流石年の功と言いますか、経験者が大勢おられ、「どれ、かしてみ」「若い時にさつつあ(さんざん)やったもの」と積極的に参加して下さったお

彼岸のぼたもち作り

陰で、職員の出番はほとんどありませんでした。利用者さん方がご自分で作られたぼたもちを美味しそうに召し上がる様子を見ることができたので、企画して良かったと思いました。

今度は違うおやつ作りも行っていきたいと思っています。



悔いのない一日を

萌気園二日町診療所 看護師 前田 綾香

先日普光寺さんで行われたもえぎデスカフェに参加させていただきました。テーマは「老いとは」ということで老いや死について語り合うという場です。和尚さんや黒岩先生のお話、そして参加された皆様それぞれの死にまつわるエピソードを聞いて、素直に「すごいなあ」と思っていました。私は皆様ほど深く考えたり調べたりしたことはなかったので、自分の中でいきっかけになったと思います。フリートークの時間、何を話そうか必死に悩んでいましたが、私にとって一番身近な存在である祖母についてお話させていただきました。

私は秋田県出身で、祖母に育ててもらったようなものでした。祖母は今年で80歳となりますが、いわゆるパワフルおばあちゃんです。もうめちゃくちゃ運動します。なんなら縄跳びだってできます。まめに連絡をとっており、今回もデスカフェに参加したことを報告しようと思って電話をかけてみました。ついでに運動が好きな理由を聞いてみると、「私はピンピンコロリが目標。

なるべく迷惑をかけずにころっと逝きたい」とのことでした。なんとも祖母らしい答えだなあと感じます。

もうひとつ、今回のテーマに沿って考えたときに印象深いことがあります。祖母は誰のお葬式に参列しても涙を見せることはなく、むしろ笑顔でいる人でした。なので、ついでにもう一つ質問しました。「自分のお葬式に来てくれた人には笑ってほしい？泣いてほしい？」「私ね、おめでとうって言ってほしい」と即答でした。

今回のテーマには答えなんてないと正直思っていますが、今日改めて思ったのは「祖母のような歳の取り方をしたいな」ということです。距離は離れてしまっていますが、少しでも親孝行できるよう、そして祖母が亡くなった時には笑って「おめでとう」といえるように過ごしていきたいです。もちろん私自身も来るかもわからない未来について心配する前に、一日一日を悔いなく過ごせていけたらいいなと思いました。



事務局 田中 伊織

赤い羽根福祉基金 篠原欣子記念財団 子ども食堂応援プログラム (「子ども食堂」の備品購入にかかる費用の助成)

上記プログラムより5万円の助成金をいただくことが出来ました。

助成金をいただき、大変感謝しております。

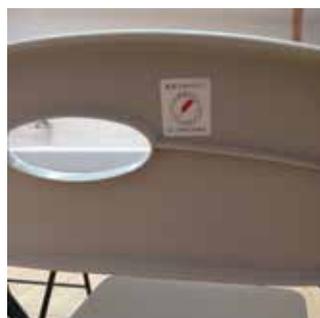
ご支援をいただいたおかげで、物品の購入が可能となりました。「みんなの食堂」開催にあたり必要な折りたたみテーブル4脚、折りたたみ椅子16脚を購入させていただきました。

4月21日(日)開催予定の「みんなの食堂」より使用させていただきます。

助成をいただいたテーブル、椅子には「赤い羽根共同募金」のシールが貼られています。

ご参加された方は、確認してみてください。

これからも微力ながら“単に食事を提供”するだけでなく、年齢の異なる人達とのふれあい、安心していただける地域の居場所作りを目標に活動に取り組んで参ります。



みんなの食堂・みんなの冷蔵庫



「みんなの冷蔵庫」は必要な食料や日用品を自由に受け取れる仕組みです。普光寺樺沢賢正住職のご厚意により、普光寺に一台設置させていただきます。お互いさまの気持ちで「みんなの冷蔵庫」の活動を行っています。

冬季の間「みんなの冷蔵庫」を休止していましたが、麗らかな春の陽気が続く頃となりましたので、4月より本格的に再開をしたいと思います。

萌気

みんなの食堂

どなたでもお越しください

4月21日
(日)

11:30~

会場 浦佐 普光寺
南魚沼市浦佐2495

大人300円
こども無料

MENU
キーマ
カレー

限定120食
無くなり次第終了

お寺で食べられるスペースや、子どもたちの楽しめるゲームもあるよ

SNSのDM、E-mailよりご予約を承ります。4月15日締め切り。氏名・連絡先・希望数（こども/おとな）をお知らせください。

お問い合わせ先 医療法人社団萌気会 法人事務局
☎025-781-6155 担当：上村・田中

*「みんなの冷蔵庫」再開にあたり、本事業に賛同して頂ける方々からの食糧品・日用品等のご寄付を
お願いしています。
萌気会法人事務局 担当：上村・田中 までご連絡ください。
Tel 025-781-6155
今後とも「みんなの冷蔵庫」の活動にご理解、ご協力いただけるよう、お願い申し上げます。

うちの利用者さん

お話好きで、とても明るい井口征子さん。
以前は旦那さんも地蔵の湯を使ってくださっていました。征子さんは地蔵の湯に来られると「父ちゃんがいるような気がする」と話されています。

「地蔵の湯に来ると父ちゃんがいると思うから安心するよ。みんな良くしてくれるから父ちゃんが笑って帰ってきてた意味がわかるよ」と言ってくださいました。とても素敵なお夫婦でしたね。

若い頃は、お花作り、畑仕事、田んぼをされていたそうです。コロナの前までは盆踊りをされたり、また地域の方々とお茶のみをされたりと交流も盛んでしたが今では、お茶のみもなくなり、楽しみは地蔵の湯に来ることだと話されていました。

これからも、お元気で地蔵の湯に来て下さいね。

萌気園大和通所介護 「地蔵の湯」



井口 征子様



盆踊りの時のチアリーダー



富士山の頂上にて

ふみ



〈萌気園「日町診療所」曼陀羅華〉
関 富慈子様

母は子供から見てもよく働く人でした。当時は未だ田畑も耕作に多大な人手を要する時代で、一町歩を越す田畑を父と2人で早朝から夜半まで働いていた事を覚えています。
農閑期には着物の刺繍を行う工場で婚礼衣装等の刺繍や機織りなどを行っていました。私や弟妹が小さな頃、余った糸でハンカチに刺繍を入れて貰ったのは良い思い出です。
父が早世して田んぼの耕作を委託してからは、しゃくなげ学級に所属して踊りを楽しむようになりました。20年近く続けたと思います。兼続公まつりの民謡ながしに出たり、文化会館での発表会や介護施設の慰問、村祭り等で踊るなど友人達と和気あいあいと活動していました。今でも時折曼陀羅華さんに来られる民舞の慰問を楽しみにしています。
現在は生憎と車椅子を要する生活となりましたが、曼陀羅華さんでスタッフの皆さんや利用者の方々と過ごせるのが嬉しいようです。お声掛けなどいただき、仲良くしたいだけですと幸いです。

寄付のお願い

ご不要のフェイスタオルがありましたら、
ご寄付をお願いいたします。
萌気会介護事業部 025-778-0311 担当：若井

編集後記

空海と言えば、学校の授業で、中国から密教の教えを日本に伝えて真言宗を開いたことや、風信雲書～から始まる伝教大師最澄への手紙「風信帖」などについて少し教わった程度です。その空海がドラマのヒーローとして登場するのは意外な印象ですが、とても深いテーマについて描かれているようですね。

今年の雪は例年に比べ極端に少なく、スキー場も早期に営業終了しているところもありました。雪解けも早く春間近と思われていましたが3月中旬にも雪が積もることもありました。寒暖差が激しく体調管理の難しい時期でした。新型コロナやインフルエンザもまだ流行っていますが今後も体調管理に気をつけて新しい春を迎えましょう。



小規模多機能居宅介護 「たもんの郷」
高野 幸徳